



発行所 アシュラムセンター
523-0894 近江八幡市中村町 567-2
Tel 0748-33-4030
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ
www.ashramcenter.jp

編集 アシュラム誌編集委員会

振替 01050-6-53772
アシュラムセンター

印刷 明文舎印刷商事(株)

解題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもってみ前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

「ああ俺は駄目だ／おれは世に敗けた／人の嘲りの的だ／こう心から寒寒とおもふたとき／そしてあなたをふり仰いだとき／あなたは前よりも近くゐたまひました」(八木重吉「生活者」より)。八木重吉没後発表されたこの「信仰日記」は、その召天2年前の重吉27歳の時に書かれたものだそうだ。愛する妻との間に二人の子をもうけ、いよいよ詩作活動も本格化しつつある中で、突如彼は結核を患う。そして死の床に伏しながら、重吉は独り深い自省と悔恨の言葉の後、神の確かな存在を間近に見るのだ。

人は病の中で、失意の底で、悲観と苦しみに悶える。けれども本当に苦しいのは、その自分の悲しみや苦しみを誰からも理解されないこと、そして自分だけがその苦しみの闇の中に留まり続けるに違いないと思うことではないか。無理解と孤独。ヨブの例をあげるまでもなく、聖書にはそんな人間の苦悩が溢れている。「悔い改めの7つの詩」の一つと言われるこの詩編の記者も、「疫病にかかったわたしを愛する者も友も避けて立ちわたしに近いものも、遠く離れて立ちます」(詩38:12)

「抑鬱」状態になることを、教えてくれる。肺結核を患い、幼い子供達を残し、その死を目の前にしていた八木重吉が「ああおれは駄目だ」と詠った心のうちには、詩編38編の詩人と同じ悲しみが通底しているように思う。そしてそれは、昼間の出来事を一つ一つ思い出しては、眠れぬ長い夜

と嘆きの言葉を書き連ねる。主イエスでさえも、ゲッセマネで、眠りこける弟子たちの無理解の中で、血の滴るような汗を流し祈った。キューブラーロス博士は、死を目前にした末期ガンの患者たちへのインタビューの中で、彼らが一樣に、自分の前に置かれた非情な現実を「否認」し、自分以外の周りの人々

瞑想

わたしの主よ、わたしの願いはすべて御前にあり、嘆きもあなたには隠されていません。

詩38:10

主幹牧師 榎本 恵

「抑鬱」状態になることを、教えてくれる。肺結核を患い、幼い子供達を残し、その死を目の前にしていた八木重吉が「ああおれは駄目だ」と詠った心のうちには、詩編38編の詩人と同じ悲しみが通底しているように思う。そしてそれは、昼間の出来事を一つ一つ思い出しては、眠れぬ長い夜

そんな「主」を間近で見つけるだろうか？ 病気の癒されることは素晴らしい奇跡の業である。経済的に成功することも、人々にとつて大きな証となる。けれども、私たちが、本当に欲しいものは、この「あなた」の深い出会いであり、「わたしの主」と呼びかける方との親しい交わりなのではなからうか。どんなに立派に長寿を全うした人であっても、また誰の目から見てもこんな幸せな人生はなかったと思えるような人であっても、最後は、たった独りきり。周りが泣き叫ぼうが、地団駄踏もうが、それはたった一人の全く静かな時なのだ。けれども友よ、それは決して無にかえるのではない。そこには必ず「あなた」と呼ぶ方がおられる。「わたしの主」と声かけられる方がおられる。友よ、その日のあることをいつもおぼえながら、今日という日を生きていこうよ。天というのは あたまのうえのみえる あれだ 神さまが おいでになるなら あすこだほかにはない 八木重吉

アシラムの恵み

その2 榎本恵主幹牧師との出会い

常任運営委員 山岡義明



常任運営委員のための修道場アシラム (年に一度、2泊3日じっくりと)

2005年10月にアシラムセンターの2代目主幹牧師田中恒夫師が急逝され、後任についての話し合いが翌月末に京都駅前ホテルの会議室であった。40名以上の牧師先生や常任運営委員の方々が集まった。皆様の発言があった中で私一人だけが当時沖繩に居られた榎本恵牧師を推薦した。その時恵師は「エツ」と驚きの声を発せられた。私の恵師との初対面の瞬間であった。

当時、恵師は沖繩の教会からの招聘に応じられていて赴任日まで決まっていたようである。その後、その招聘がキャンセルとなったことを知り、主幹牧師としての招聘を他2名の常任運営委員の方と依頼して翌年5月から単身で就任していただいた。神様の不思議な秘められた計画が実現したことに喜び感謝したことであった。

それ以来、もう12年にもなるが神様から多くの恵をいただいた。聖地イスラエルでのガリラヤ湖畔アシラムでは、ハワイアシラムの友と交流し、賛美のフラダンスの礼拝や、聖書にある各地でその個所の静聴や礼拝によって、イエス様の働きを歴史的事実として実感するこ

とができ、インマヌエルの神様がいつも共に居て下さるとの信仰を強められたことであった。特にイエス様が最後の夜を過ごされた狭い地下牢での礼拝は、毎年受難節に思い出し、忘れることができない。台湾アシラムの参加も大きな恵みであった。台北日語教会との交流によって、私の所属する同志社グリークラブOB男声合唱の団長として訪台して、教会や老人ホームや学校でコンサートによる親交ができ恵みであった。

何よりも年頭アシラムには17年連続の参加で、多くの祈りの友に支えられて、朝のレビの時を持ち溢れるたくさんの方の恵みをいただいた。榎本保郎牧師召天30年・35年・40年の記念会にかかわらせていただいたことも大きな恵みであった。「わたしの魂は沈黙して、ただ神に向かう。(詩62・2) これからも「聖書に聞き」「み言葉に聴いて」神様の福音に応答していきたいと思わせられている。

(大阪神愛教会)

「学生のための修道場アシラム」記

― 祈りとは ―

石邊次郎

近江八幡に越してより4カ月になるが、友人に「アシラムって何？」と問われて、簡潔に答えられたためしがない。「まあ……皆で祈る場のことかな」と歯切れも悪く返すのが精一杯だし、理解などされていないだろう。



きっかけはファミリーの女性の一言。「これほど自分の話したのは初めてです」。なぜだろう。イエスは仰っていた。「どんな願い事であれ、あなたがたのうち二人が地上で心を一つにして求めるなら、わたしの天の父はそれをかなえてくださる。二人または三人が私の名によって集

ご献金者 敬称略 8月分
鹿屋 教美 勝美 良雄 知恵 空
キリ原 山達 榎本 橋本 村瀬 大塚 山井 榎本 松越 上柳 香賀 山田 吉田 正岡 沖山 山本 杉山 美理 当山 八重子 脇 萬里 藤子 宜和 横山 美恵子 洗次 菅原 安伸 博 前子 マ 玲子 エキエ 井上 謙美 子 片岡 フジ子 安時 高子 小林 素子 オン(7月分含む) 直良子 七海 恒子 相川 小林 藤



就職を祝され、秋から東京へ旅立つ石邊兄(後列中央)

「恵みの時」でなされる身の上話については他言無用のルールがある。だからこそ安心して自分の心のうちを話せるのだ、ともいえるけれど、私は聖書の通り、私たちとおもにおられるイエスを通して神により頼まんとするときに、人間は最も安心して素直になれるのではないかと信じている。(同志社教会)

アシュラム修道場生活記

その21

「飼いたい」



伊達 平和

生き物が好きだ。実家で犬を飼い、鳥小屋があり、水槽で魚を飼い、庭で植物を育てる、という生活を高校まで送っていた。そんな欲張りな筆者だから、大学で一人暮らしをし、何も育てられないのはとても寂しかった。しかし！ここ、修道場では野菜を育てることができる。夏野菜が終わり、今は秋冬に向けて、春菊や大根を育てているところである。なんて幸せなことだろう。それでも十分に満足しているのだが、本当のことをいえば、動物が飼いたくて仕方がない。

実は筆者はアシュラムセンターに棲み着いたときから「ヤギを飼いませんか」と提案し続けてきた。修道場にヤギがいるといいことが沢山ある。はじめに、修道場の庭の草は伸びるのが早いから、ヤギがいれば除草効果が期待できる。また、牝山羊がいたら乳も取れる。乳をとったらチーズを作ることができる。子ヤギが生まれれば、その愛くるしい姿に癒やされる。そうすればどうなるか。ヤギの癒やし効果を求めて、修道場に若者が(たぶん)集まってくる。若者は各地のアシュラムに参加する。これで「アシュラムに若い人がいない問題」が解決する。若者が増えたらロバを飼う。「ちいろば先生」のところに本物のロバがいるなんて、素敵じゃないだろうか。「いいねえ！ロバ！！」と、こういう話をして乗ってくるのは康子さんである。ロバを飼ったら猫と犬と鶏も飼いたい。プレーメンの音楽隊だ。動物を引き連れて、るつ子さんと音楽会を開こう…と、筆者が楽しい妄想を繰

り広げている隣で、ここのオーナーは「むりやで」と渋い顔である。そういう話をするたび「破天荒なイメージだったけど、意外に常識的なところがあるよなあ」と思う。

まあ、そのように妄想するだけならタダである。もちろん筆者も現実的にそれが難しいことは承知している。一番の理由は、今の職場は任期があるため、筆者がいつまで滋賀県にいられるのか、わからないことだ。動物を飼うことは責任が伴うから、流石にヤギとロバその他大勢をおいていけないし、連れて動けるという保証はない。これで、近江八幡で骨を埋める覚悟があれば、「アシュラムセンタープレーメン計画」を丁寧に練るのだが…。せめて、自分の同志があらわれ、自分がいなくなっても世話をしてくれるなら、と思っているが、そんな都合のいい同志は現れない。

しかし、そんなことでは動物はいつまで立っても手に入らない。というわけで、とりあえず、恵先生の言うことは置いて飼うことに決めた。その生き物は「ぬか」に引き寄せられてやってくる。容器にぬかと塩と水とその他の材料を入れて毎日混ぜていけば、乳酸菌や酵母が住み着き、美味しいぬか床の出来上がりだ。ぬか床を作るのは人生で初めてのことだが、これがなかなか「生き物」だ。毎日世話をしてやらないと、機嫌が悪くなって変な匂いを発するようになる。でも毎日野菜を与え、清潔にし、丁寧にかけ混ぜてやると、懐いてくれ、芳醇な香りを放つようになる。最近夜は、自分でつけたぬか漬けを食べて晩御飯の足しにしている。

このアシュラムセンター修道場で暮らし始めて、思いもよらなかった経験をいくつもしている。動物を飼いたくて、飼えなくて、ぬか床をかきまぜはじめたのも、もしかすると…これも神様のご計画なのかもしれない。

中谷 哲造
尾島 江子
松岡 正喜
榎本 恵
榎本 康子
榎本 光太
吉田 康子
米田 康子
米田 康子
湯野 康子
鹿屋 康子
キリスト教会 谷本めぐみ
加々美 要
堺大浜
キリスト教会 伊達 平和
第1回
学生のための 修道場アシュラム
辻田志津子
61口
¥766,255

ヨセフ基金 (義援金)
新井みつ子
新井 洋子
吉田すみあ
ちいろば
アツちゃん・
シュラム君
4口
¥70,000

新修道場 のために
たびんちゅ牧師
1口

合計
66口
¥838,255

専らご献金、
ご献品、お祈り、
お便り、電話
メッセージ、
そして、共に
アシュラム！
感謝いたします

静まりの世界への主の御導き(4)

証 唄野隆・絢子(ご夫妻)

(堺大浜キリスト教会)

ビュルキ先生は、その頃、インテグレーション・セミナリーの構想を練っていたと後で知った。彼は、スイスの学生伝道団体の主事(Second)で、第二次世界大戦後、敗戦国ドイツの学生伝道を助けて、学生伝道の主事をしていて、学生時代は熱心だったのに、社会に出ると信仰を失う若者を見、彼らが活動には熱心だが、毎日みことを聞く習慣に欠けていることに気づき、日々、静思の時を守ることを大切さを痛感した。彼は、1949年、IESが結成されるときヨーロッパ地区主事となり、その後、IES副総主事となった。そして、各国の総主事たちの支援と指導にあたり、彼らが中期に達すると、学生たちとの関わりが難しくなり、牧師や巡迴伝道者など次の奉仕に転進するが、そのとき、大きな危機に遭遇するのを目の当たりにした。彼らは、

仕事の忙しさで疲れ、夫婦の関係や子どもとの関わりなどいろいろな問題に振り回され、心と生活がバラバラになっていた(disintegrated)。それで、彼らが、統合された生、筋の通った、誠実な生き方(Integrated Way)を回復することを目指すインテグレーション・セミナリーをはじめた。その中心は、主の前に静まり、主に向かい、主の語りかけに耳を傾け、自分の思いと生活を見直し、主のみこころを自分の心とすることを目指すところにあった。具体的には、みことを聴き、それを受け止め、自分の姿を見つめ、思いめぐらして祈り、その経験を分かち合うが、主に向かって自分の思いを集中する瞑想の祈り(meditation)から、主のみこばを聴き、主の御心に共感し、主の御手の中に自分を委ね懇う祈り、観想の祈り、あるいは観照の

祈り(contemplation)と言われる祈りに進む。彼は、後に、後者に集中するコンテンプレーション・セミナリーも開いた。先生は、熱心に私たちの参加を勧めてくれたが、日本の大学教授が6月に一ヶ月の休暇を取ってこういうセミナリーに参加することは難しかった。私たちの参加は私の定年後になった。そして、それが先生最後のセミナリーになった。

静まりの世界への歩みは、ハンス・ビュルキ先生との出会いと、榎本先生のアシラムとよって開かれた。私たちが結婚して10年目、家の日曜学校と、子羊会という若者の集まりと、隣家の妹の家で始まっていた婦人の集まりを合わせて、堺大浜伝道所が誕生した。1972年10月のことだった。その翌年、1973年5月にハンス・ビュルキ先生が突然、私たちの家に飛び込んで来て、教会でも説教してもらった。それから一ヶ月後の6月の末、大阪朝拝会の赤井正二郎さんが榎本保郎先生を連れてきてくれた。榎本

先生は、その頃、阪神間でアシラムを始めようとしておられ、7月初めに能勢川アシラムを開かれた。父、唄野政一と私たちの教会のメンバーも7人、参加した。そのとき、岸和田聖書教会の黒田朔先生と父が榎本先生の招きに応じて、それ以後アシラムに深く関わることになった。2年後の1975年6月には加太アシラムが発足した。私はGKで静思の時を学んだ。それは、毎日、聖書を読み、そこから神の語りかけを聴き、それに応える歩みを整えることを目指していたが、私の静思の時は、

聖書のことばを理解することに傾いていた。しかし、榎本アシラムに出たとき、榎本保郎先生の中に、聖なる主の前に出て、みこばを聴き、それに従う祈りのモデルを見た。信仰の世界では、聴いて理解することによってではなく、本気で信じて生きている人に触れ、ともに生活して、主御自身との交わりに至って初めて実を結ぶ。だから、私は、加太アシラムには、続けて参加することに決めた。留学とか学園紛争などで3、4回、欠席したが、それ以外は毎回参加している。(つづく)

皆様のご来訪、お待ちしております



つこ姉の親友、みちこファミリー、勢ぞろい!!



9月夕礼拝、九州アシラムの友も初ご参加。



井上兄(画家、恵師書「石ころも叫び出す表紙絵」&ゲーリー師スケッチと祈りの旅

「ロスのに 悲しみ残しめされたる ちいロバ牧師 今も語れり」

小林佳子姉、歌集 であい 第二集 ちいろばファミリーより (前常任運営委員)

アシュラム誌600号感謝と2018年クリスマス献金のお願い

イエスは主なり

みなさんお気付きの方もおられるかと思いますが、今月号でアシュラム誌は600号を迎えました。50年もの間、コツコツと続けてきたことが、今このような記念すべき時を迎えられたことに、私は大変感慨深い思いに浸っています。四国今治教会から始まり、ここ近江八幡のアシュラムセンターに移り、初代榎本保郎牧師、2代目田中恒夫牧師を経て、今こうして600号を発刊することのできたことを、まず主に感謝いたします。同時に、この証の書を、心待ちにし読み続けてくださった全国の、そして台湾、北米、ブラジル、その他海外に住む日本人クリスチャンの皆様方に心よりお礼申し上げます。アシュラム誌には、三浦綾子先生をはじめ、多くの信徒また牧師の皆様が50年の間に、様々な形で、ご寄稿いただきました。このことも、忘れてはならない大きな感謝と喜びでした。

現在、1600箇所、3000部余りのアシュラム誌が、毎月印刷発送されています。当初からこの業に携わってくださっている「明文舎」様。そして「ヤマト運輸」の皆さまにも、この場をお借りし、お礼申し上げます。

「点には面積がありませんが、点が無数に連続すると線になります。つまり『信じる』ということは点のようなものですが、この点のような『信じる』ことが連続していくところに『信仰生活』が生まれてくるのです。」(榎本保原著「アシュラムの手引き」より)

どうか、これからもこの一つ一つの点のような、アシュラム誌が線となり、面となり、この世界を「イエスは主なり」という証で覆うほどのものとなるよう祈り、支えてください。

さて、今年も残すところ2ヶ月足らずとなって参りました。クリスマスを前にし、また皆様方にセンターの働きのため、また「ヨセフ基金」のための献金をお願いいたします。

今年も、自然災害の猛威が、日本列島を襲いました。呉、北海道のアシュラムの友に、センターからもお見舞金を送ることができたのは、一昨年からはじめました「ヨセフ基金」があったからです。

ところが今回の台風21号で、私たちアシュラムセンターも被害を受けてしまいました。ゲストハウス「アンナ祈りの家」の屋根が壊れ、台所と宿泊部屋の一つが雨漏りで大変なことになりました。またセンターのほうも、屋根の修理が必要となりましたが、今現在はなんとか応急処置で対応できています。しかし業者の見積もりによると、屋根の葺き替えに最低200万円のお金がかかると言われています。大きな額ですので、今ある「ヨセフ基金」だけでは、到底賄うことができません。様々な災害等に即対応できるようにと積み立てしていた「ヨセフ基金」ですが、今センター自身に必要となってきています。他にもたくさん支援を求めているところがある中で、どうか、アシュラムセンターのことも覚え、献金いただけますよう、お願いいたします。

皆様の上に、主の祝福と恵みがありますよう祈っております。

アシュラムセンター主幹牧師 榎本恵
アシュラムセンター常任運営委員一同



世光保育園一期生の
三枝ちゃんと、
心は約70年前の和子先生!



懐かしの友と喜びの時。
でる子師を抱きつつ。



「ハイハイハイ♪」
ひ孫も大笑い♪

10月聖書教室にて

詩115...3

すべてを行われる。」

御旨のままに

天にいまし

「わたしたちの神は

和子母
93歳感謝

11月の聖書教室など	
2(金)	阪神ミニアシュラム (主恩教会 PM1:00)
8(木)	常任運営委員会 (アシュラムセンター)
11(日)	ちいろば牧師記念チャペル夕礼拝・愛餐会 (PM5:00)
12(月)	福岡聖書教室 (博多クリオコートホテル PM1:30)
20(火)	大阪聖書教室 (大阪クリスチャンセンター AM10:30)
21(水)	カフェちいろば聖書入門講座 (京都・伏見区深草 PM1:30)
22(木)	新さん祈りの家 (滋賀県湖南市 AM10:00)
23(金)	センター聖書教室 (アシュラムセンター AM11:00)
26(月)	静岡聖書教室 (旧・英和女学院宣教師館 PM2:00)
27(火)	東京聖書教室 (御茶ノ水クリスチャンセンター 4F AM10:30)
27(火)	桜美林リトリートアシュラム (桜美林大学荊冠 PM2:30)

11月のアシュラムなど	
5(月) 6(火)	第39回 札幌アシュラム (札幌サンブラザ) 011-561-7951 奉仕者 榎本 恵師 吉田すみよ姉
14(水) 15(木)	第42回 阪神アシュラム(一泊) (母の家ベテル) 0748-33-4030 奉仕者 榎本 恵師 アシュラムセンター
20(火) 22(木)	第43回 京浜アシュラム 048-789-1325 奉仕者 山川 暁師 加々美 要師
30(金)	合同平和祈禱会inアシュラムセンター 奉仕者 中村吉基師 「いのちの水」翻訳者(新教出版社) ★この書の後に、榎本てる子師の一文あり PM5:00~ 0748-33-4030 アシュラムセンター

12月のアシュラム予定	
8(土)	合同聖書教室・クリスマス愛餐会 0748-33-4030 アシュラムセンター

1月のアシュラム	
1/24(木) 26(土)	第44回 年頭アシュラム (関西セミナーハウス) 主題「ただし、わたしとわたしの家は主に仕えます。」 ヨシユア 24:15 奉仕者 榎本恵師 岡山敦彦師(大分恵みクリスト教会)(日本アシュラム連盟理事) ★詳細は、次号案内チラシをご覧ください 0748-33-4030 アシュラムセンター

皆様のご参加
おまちして
います。



お申し込みは
なるべく1月12日
(土)までに!

みことば

下妻シャロームキリスト教会牧師

山本 悦子

列王紀上19章19章19~

「エリシャの召命」

エリヤは主に命ぜられたようにアベルメホラへ行き、牛で畑を耕していたエリシャに会い、彼を自分の後継者にする為、自分の着ていた外套をエリシャに投げかけました。

エリシャは預言者に召されたことを知り、父母兄弟と別れを告げてエリヤの弟子となりました。エリシャの前に行く11くびきの牛はエリシャのしもべたちが引いているので、エリシャが富裕な農夫であったことをあらわすと共に、彼がエリヤに従ったことは彼自身にとって大いなる犠牲であったことを示しています。エリシャは預言者の使命を与えられると、肉親に別れを告げ、豊かな生活、職業を全て捨てて新生活に入ったのです。今の状態を続ければ、使用人もいる、土地もあり、家畜も与えられ、親兄弟と楽しい生活をし将来も心配することはない。そんな満ち足りた生活と訣別して献身したのです。

イエス様の弟子たちもそうでした。親を捨て、妻子を捨て、職業を捨てて宣教活動に参加したのです。この世のしがらみから離れ、ただひとすじに宣教の為に主に従ったのです。これは一大事件であります。

救霊の働きは主に全てを捧げ、自分に全く死ぬことです。このことなくして神の国運動はなりたちません。この世に心が恋々としていては伝道の働きはできません。古い殻をぶち破り、古い衣を脱ぎ捨て、甘い生活と訣別することです。

やがてエリシャは、すばらしい預言者として成長し、奇跡を起し、良い働きをします。それは全ての訣別に勝る喜びです。

私たちは死力を尽くしているでしょうか。捨てるものを捨てているでしょうか。

あとがき

紙面でも触れた通り、今号のアシュラム誌で600号を迎える。1ヶ月に1回のペースで50年。本当に感慨深い。最近、何人かの方に、巻頭言の字が小さくて読みづらいと言われた。しかし、昔のアシュラム誌を見ると、もつと小さな文字で、ギッシリと書かれている。私も、ついつい書き始めると思いが募り、言葉数が多くなってきてしまうのは事実である。読みづらいかも知れないが、どうか、この思いを感じていただき、読んでくださるとありがたい。いずれにせよ、これからはもう少し大きい字になるよう心がけるつもりだ。

(恵)

アシュラム誌
第1号お持ちの方、
ご一報を!!

